

科目名	文章の表現Ⅱ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	CompositionⅡ	1	後期	2
担当者名	橋元志保	テーマ	論理的な思考力、表現力を身につけよう	
授業概要 <p>良い文章とは、どのような文章なのでしょう。それは、主題や文章力、構成に優れているだけではなく、自分自身の価値観、心のありようが表れている文章だと思います。「文は人なり」という有名な言葉がありますが、文章を書くことは、自分自身をみつめ直すことに繋がるのです。本講義では、自分自身の考えを明確に伝え、また論理的構造を持った文章が書けるようになるために、様々なことを学んでいきます。具体的には、レポートや論文作成のために必要な、論説文の書き方を身につけていきます。</p>				
授業計画 第1回 読むことと書くこと① 第2回 読むことと書くこと② 第3回 言葉の機能 第4回 構成とテーマの設定 第5回 資料の探し方 第6回 引用と要約① 第7回 引用と要約② 第8回 論説文を書いてみよう① 第9回 論説文を書いてみよう② 第10回 論説文を書いてみよう③ 第11回 推敲と批評① 第12回 推敲と批評② 第13回 言葉と文章 第14回 文章の構造 第15回 総括				
テキスト	辰濃和男『文章のみがき方』（岩波新書 2007年）			
参考文献	千葉恭造・本多隼男他『文章表現と会話』（双文社出版1983年） 尾川正二『文章のかたちとところ』（ちくま学芸文庫 1995年）他			
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。			
内容的に関連する科目	文章の表現Ⅱ・文章の読み方・小論文の書き方			

科目名	小論文の書き方	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Critical Thinking and Writing	1	後期	2
担当者名	橋元志保	テーマ	論理的文章の書き方の基本を身につける	
授業概要 <p>本講義では、小論文やレポートの基本的な書き方を学びます。大学生活において、論理的な文章を「書く」という行為は欠かせないものです。定期試験における文章問題やレポート、そして卒業論文など、「テーマを設定し、それに基づいて資料を集め、構成を考え、まとめていく」という作業を行うことは、非常に多いのです。</p> <p>まずはじめに、論の構成やテーマの設定の仕方について学び、続いて資料の探し方、引用の方法などを学んでいきます。また自分が書いた文章を、表記や文体、構成等の観点から、より良い文章に推敲していくスキルも身につけていきましょう。</p>				
授業計画				
第1回 論説文とは①				
第2回 論説文とは②				
第3回 構成とテーマの設定①				
第4回 構成とテーマの設定②				
第5回 資料の探し方①				
第6回 資料の探し方②				
第7回 小論文を書いてみよう①				
第8回 小論文を書いてみよう②				
第9回 小論文を書いてみよう③				
第10回 推敲の方法				
第11回 表記・段落・文体について				
第12回 引用と要約①				
第13回 引用と要約②				
第14回 文章の構造				
第15回 総括				
テキスト	授業の際に紹介する。			
参考文献	保坂弘司『レポート・小論文・卒論の書き方』（講談社学術文庫 1978年） 尾川正二『文章のかたちと、こころ』（ちくま学芸文庫 1995年）			
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。			
内容的に関連する科目	文章の読み方・文章の表現Ⅰ・文章の表現Ⅱ			

科目名	地理学の基礎Ⅱ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Geography Ⅱ	1	後期	2
担当者名	上村康之	テーマ	系統地理学入門	
授業概要 大学で初めて「地理学」を学ぶことになる学生、あるいは高等学校で地理を受講しなかった学生に対し、まず中学校、高等学校以前の授業で学んだ地理と「地理学」は異なるということに気づき、理解してほしい。本授業では、現代の地理学が扱っている最新のテーマを題材に地理学という学問の広がりについて解説する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 地理学の基礎Ⅰ・Ⅱを通年で受講することが望ましい。 ○ テキストは必ず購入し、通読し予習すること。 ○ なお、受講者が少人数の場合は、講義中心でなくテキストの輪読、発表を取り入れた授業を行う。 				
授業計画				
第1回 地理学への招待1				
第2回 地理学への招待2				
第3回 人口の地理学1				
第4回 人口の地理学2				
第5回 日本の産業1				
第6回 日本の産業2				
第7回 都市とは何か				
第8回 都市と農村				
第9回 人・モノの流れ（中心地と小売業）1				
第10回 人・モノの流れ（中心地と小売業）2				
第11回 地図学1（地図の基本）				
第12回 地図学2（地形図の読み方）				
第13回 環境と地域社会1（白神山地と屋久島）				
第14回 環境と地域社会2（五箇山・白川郷）				
第15回 後期試験				
テキスト	高橋伸夫編『現代地理学入門』古今書院、2005年			
参考文献	帝国書院編集部編『新詳高等地図 最新版』帝国書院、2004年			
単位認定の方法	定期試験と授業内レポートにより、総合的に評価する。			
内容的に関連する科目	産業と地域Ⅰ・Ⅱ、人間と地域、自然と地域			

科目名	情報と消費の社会	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Society of Consumption and Information	2	後期	2
担当者名	しょうじ まこと 庄 司 信	テーマ	情報化・消費化社会の現在と未来	
授業概要 <p>現代社会についての一つの全体像を提示するものとして、見田宗介『現代社会の理論』（岩波新書）を読む。20世紀半ばにまずアメリカで成立したとされる「現代社会」の基本的特徴（情報化・消費化）と問題点（環境・資源問題と南北問題）、さらに問題解決の基本的方向性に関する見田さんの提案を学ぶ。なお、この講義は少し難しい本を皆さん自身が読めるようになることも意図しているので、文章読解的な解説もするが、半期で1冊全体を丁寧に読むのは無理なので、第1、4章を中心に読む。</p>				
授業計画				
第1回 『現代社会の理論』の「はじめに」				
第2回 第1章の1				
第3回 第1章の1のつづきと2				
第4回 第1章の2のつづきと3				
第5回 第1章の4				
第6回 第1章の5、6				
第7回 第2章概説				
第8回 第3章概説				
第9回 第4章の序と1				
第10回 第4章の1のつづきと2				
第11回 第4章の2のつづきと3				
第12回 第4章の4				
第13回 第4章の5				
第14回 第4章の6				
第15回 第4章の7と結				
テキスト	見田宗介『現代社会の理論』（岩波新書）1996年			
参考文献				
単位認定の方法	レポートと試験の成績			
内容的に関連する科目	家族の危機と変容、国際経済学Ⅰ・Ⅱ、資本主義のしくみⅠ・Ⅱ			

科目名	入門経済学	分類	必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Basic Economics	1	後期	2
担当者名	塚谷 文武・西尾圭一郎・北野 友士	テーマ	経済学の基礎を学ぶ	
授業概要 <p>前期科目の現代社会と経済（必修）の講義を受けた学生を対象に、経済（学）の必須の基本用語を確実に身につけさせることを目的とした講義である。また、2年次にマクロ経済学・ミクロ経済学を学習する学生のため、入門から本格的な経済学の学習への橋渡しも目的としている。このため、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的理論の中から、エッセンス部分を取り出し、できるだけ平易にかみ砕いて丁寧に教授する。</p>				
授業計画				
第1回 インTRODクシヨン				
第2回 経済学の基礎(1)				
第3回 マクロ経済学の基礎(2)				
第4回 マクロ経済学の基礎(3)				
第5回 マクロ経済学の基礎(4)				
第6回 マクロ経済学の基礎(5)				
第7回 マクロ経済学の基礎(6)				
第8回 マクロ経済学の基礎(7)				
第9回 ミクロ経済学の基礎(1)				
第10回 ミクロ経済学の基礎(2)				
第11回 ミクロ経済学の基礎(3)				
第12回 ミクロ経済学の基礎(4)				
第13回 ミクロ経済学の基礎(5)				
第14回 ミクロ経済学の基礎(6)				
第15回 まとめ				
テキスト	未定だが、テキストは使用する。			
参考文献	随時紹介する予定。			
単位認定の方法	授業、期末試験、出席などから総合的に評価する。			
内容的に関連する科目	現代社会と経済（必修）			

科目名	ミクロ経済学	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Microeconomics	2	後期	2
担当 ^{ふりがな} 者名	北 ^{きた} 野 ^の 友 ^{ゆう} 士 ^し	テーマ	市場取引、独占、公共財	
授業概要 <p>新しい商品が発売されたとき、その商品が値下がりするのを待ってから購入したという経験は、誰にでもあると思います。ミクロ経済学とは、こうして商品を売りたい（供給）側と、商品を買いたい（需要）側とが出合うことで、その商品の値段がどのように決まるかを理解するための考え方です。そのため、本講義では、消費者や企業の行動と、価格が決定するメカニズムとの関係を学びます。</p>				
授業計画				
第1回 インTRODakション				
第2回 ミクロ経済学とは				
第3回 需要と供給(1) 需要と供給の一致				
第4回 需要と供給(2) 需要曲線と供給曲線				
第5回 需要曲線と消費者行動(1) 需要と効用				
第6回 需要曲線と消費者行動(2) 消費者余剰				
第7回 費用の構造と供給行動(1) 費用と供給				
第8回 費用の構造と供給行動(2) 生産者余剰				
第9回 市場取引と資源配分(1) 市場取引				
第10回 市場取引と資源配分(2) X効率性				
第11回 独占の理論				
第12回 企業と産業の経済学				
第13回 市場の失敗と補正(1) 外部効果とピグー税				
第14回 市場の失敗と補正(2) 市場の失敗と公共財				
第15回 まとめ				
テキスト	伊藤元重『入門 経済学』日本評論社			
参考文献	講義中に適宜紹介します。			
単位認定の方法	出席、試験、および平常点（レポートなど）			
内容的に関連する科目				

科目名	財政と国民生活	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Public Finance II	2	後期	2
担当者名	塚谷文武	テーマ	財政の諸問題を考える	
授業概要 「財政」とは、国や地方自治体など公共部門の経済活動である。われわれ国民の生活は、その存在をぬきにして成り立つことができないほど、密接な関わりをもっている。人口減少社会が到来し、今後も少子・高齢化が進行する現代社会において、「財政」に関する諸問題を明らかにし、その対策について考えたい。				
授業計画				
第1回 人口高齢化と財政(1) 内容：人口高齢化の財政への影響				
第2回 人口高齢化と財政(2) 内容：年金、医療、介護財政の諸問題				
第3回 人口高齢化と財政(3) 内容：年金、医療、介護財政の諸問題				
第4回 人口高齢化と財政(4) 内容：年金、医療、介護財政の諸問題				
第5回 公共投資と財政(1) 内容：現代経済と公共投資				
第6回 公共投資と財政(2) 内容：社会資本としての公共投資				
第7回 環境と財政(1) 内容：環境問題と公共政策				
第8回 環境と財政(2) 内容：環境保全と財政システム				
第9回 公債と公債政策(1) 内容：日本の国債制度				
第10回 公債と公債政策(2) 内容：国債管理政策の再構築				
第11回 国と地方の財政関係(1) 内容：政府間財政関係と分権化の潮流				
第12回 国と地方の財政関係(2) 内容：政府間財政関係と分権化の潮流				
第13回 地方財政危機と財政改革(1) 内容：財政調整制度をめぐる諸問題				
第14回 地方財政危機と財政改革(2) 内容：行政の広域化と市町村合併				
第15回 総括と展望				
テキスト	重森暁・鶴田廣巳・植田和弘『Basic 現代財政学〔新版〕』有斐閣、2003年。			
参考文献	適宜、お知らせします。			
単位認定の方法	期末試験（70%）、出席点（30%）を含めて成績評価を行う。			
内容的に関連する科目	財政のしくみ（前期）、地方の財政（前期）			

科目名	現代ファイナンス論Ⅱ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Finance Ⅱ	2	後期	2
担当 ^り 者 ^が 名 ^な	北 ^{きた} 野 ^の 友 ^{ゆう} 士 ^し	テ ー マ	金融政策、金融システム	
授業概要 <p>お金や金利について考える上では、それらに大きな影響を与える日本銀行（中央銀行）の行動について、理解する必要があります。また、現在のお金の流れを理解するには、銀行を通さないお金の流れにも着目する必要があります。そのため、本講義では、中央銀行が行う金融政策の目的や手段、金融システムの変化について学びます。</p>				
授業計画				
第1回 インTRODクシヨ				
第2回 現代経済と金融				
第3回 景気変動と金融(1) 投資と金利との関係				
第4回 景気変動と金融(2) 金利と景気との関係				
第5回 金融政策の目的と手段				
第6回 金融政策と金利(1) 金融政策のメカニズム				
第7回 金融政策と金利(2) 金利の変化				
第8回 金融政策とマネーサプライ(1) 金利重視からの転換				
第9回 金融政策とマネーサプライ(2) マネーサプライ安定化の意義				
第10回 金融自由化とは何か				
第11回 信用秩序維持政策				
第12回 証券業務と証券投資				
第13回 保険の機能と保険業				
第14回 デリバティブの機能と種類				
第15回 まとめ				
テ キ ス ト	岩田規久男『金融入門』岩波新書			
参 考 文 献	講義中に適宜紹介します。			
単 位 認 定 の 方 法	出席、試験、および平常点（レポート等）			
内容的に関連する科目				

科目名	資本主義経済のしくみⅡ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Political Economy Ⅱ	2	後期	2
担当者名	佐藤 努	テーマ	資本主義経済の構造と動態	
授業概要 雇用・被雇用関係によって編成される企業すなわち資本主義企業と、それを中心とする市場経済すなわち資本主義経済の構造（しくみ）と動態（運動）を明らかにしていく。まず、利潤（剰余価値）とは何かを見た後、すべての社会に共通する生産の一般的・技術的な諸要素と諸関係をみる。ついで、利潤（剰余価値）をより多く生産するための諸方法をみる。最後に、利潤を追求する資本主義企業によって構成される一国の経済は、経済成長を通してどのような社会に向かっていくのかを考える。				
授業計画				
第1回 はじめに				
第2回 第4章 市場経済と貨幣の資本への転化(1)				
第3回 第4章 市場経済と貨幣の資本への転化(2)				
第4回 第5章 絶対的剰余価値の生産 I 絶対的剰余価値の生産				
第5回 II 現代資本主義と絶対的剰余価値の生産				
第6回 III 現代資本主義と労働日				
第7回 第6章 現代資本主義と相対的剰余価値の生産 I 現代資本主義と相対的剰余価値の生産				
第8回 II 相対的剰余価値の四つの特殊な生産様式				
第9回 III 現代資本主義とコンピュータ制御生産様式				
第10回 第7章 現代資本主義と労働賃金(1)				
第11回 第7章 現代資本主義と労働賃金(2)				
第12回 第8章 資本の蓄積過程と失業(1)				
第13回 第8章 資本の蓄積過程と失業(2)				
第14回 第9章 資本の蓄積過程と貧困(1)				
第15回 第9章 資本の蓄積過程と貧困(2)				
テキスト	松石勝彦『新版 現代経済学入門』青木書店、2002年、2500円			
参考文献				
単位認定の方法	試験の成績に出席を加味する。			
内容的に関連する科目	現代経済と社会、入門経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学			

科目名	国際経済学Ⅱ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	International Economics Ⅱ	2	後期	2
担当者名	にし お けいいちろう 西 尾 圭一郎	テーマ	国際決済、外国為替、国際収支	
授業概要 国際経済学は、大きく分けて2つの領域に分けることができる。1つは国際貿易の分野であり、もう1つは国際金融の分野である。後期に行う本講義では国際金融について学習する。国際的な財の移動の裏側では、必ず資金の移動が存在する。モノの売買が国家を越えるとき、貨幣による支払いも国家を越える。そこで国際経済学の金融的側面のうち、国際決済・資金移動・外国為替・国際収支などに重点を置いて学習する。				
授業計画 第1回 インTRODクシヨン 第2回 国内決済と国際決済 第3回 国際決済と外国為替取引 第4回 国際決済と銀行 第5回 為替のリスクと資金調整 第6回 外国為替取引と外国為替市場 第7回 外国為替相場の理論 第8回 国際収支の見方 第9回 国際収支と国内経済 第10回 国際収支と為替相場 第11回 国際収支から見る経済関係：直接投資・資本投資 第12回 各国の国際収支① 第13回 各国の国際収支② 第14回 各国の国際収支③ 第15回 まとめ				
テキスト	川本明人『基礎からわかる外国為替』中央経済社			
参考文献	講義中に適宜紹介します			
単位認定の方法	出席、試験、および平常点（レポート等）			
内容的に関連する科目	国際経済学Ⅰ、現代ファイナンス論、国際金融のシステム			

科目名	日本経済の歩みⅡ	分類	経済学科選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Japanese Economic HistoryⅡ	2	後期	2
担当者名	鈴木達郎	テーマ	明治維新时期と産業革命期の日本経済	
授業概要 <p>本講義の対象は、1853年のペリー来航から、明治維新、日清・日露戦争を経て、1910年の韓国併合までである。この時期に日本は近代化へのテイクオフに一応の成功を収めた。ただしその過程は、手放しで賞賛されることでもなければ、一方的な非難があげられることでもない。本講義の課題は、なぜ日本がテイクオフに成功することができたのかを経済史の視点から考察し、戦前の日本経済の歴史的特質を明らかにすることにある。</p>				
授業計画 第1回 開国の経済的影響 第2回 開国の政治的影響——幕末政治過程 第3回 地租改正 第4回 秩禄処分 第5回 殖産興業 第6回 明治国家の成立 第7回 小括——明治維新时期の日本経済 第8回 産業革命の開始 第9回 重工業と鉱山業の展開——財閥論 第10回 紡績業の展開 第11回 製糸業の展開 第12回 農業の展開——地主制論 第13回 小括——産業革命期の日本経済 第14回 総括——戦前から何を学ぶか 第15回 定期試験				
テキスト	テキストは使用しないが、講義のなかで資料を配付する。			
参考文献	講義の中で紹介する。			
単位認定の方法	試験の結果に出席点を加算して評価する。			
内容的に関連する科目	日本経済の動きとしくみⅠ、欧米の産業と交易の歴史Ⅰ・Ⅱ			

科目名	欧米の産業と交易の歴史 II	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	European and American Economic History II	2	後期	2
担当 者名	白川 欽哉	テーマ	20世紀の欧米経済	
授業概要 <p>本講義では、20世紀の欧米経済のダイナミックな変化の原因とその影響を分析・検証していきます。20世紀は、大きく分けると巨大企業の誕生、二つの世界大戦、帝国主義と反帝国主義運動、福祉国家の進展、社会主義の盛衰といった特徴を有しているといえるでしょう。それらを念頭に、講義は構成されています。講義中に聞き逃した点、理解しづらい点があった場合には申し出てください。</p>				
授業計画				
第1回 20世紀の世界経済（概観）				
第2回 アメリカ合衆国の成立と農工間分業				
第3回 19世紀末大不況とヨーロッパ経済				
第4回 第二次産業革命とヨーロッパ				
第5回 第二次産業革命とアメリカ合衆国				
第6回 巨大企業の時代				
第7回 イギリスの地位低下とその背景				
第8回 植民地獲得をめぐる競争				
第9回 第一次世界大戦とロシア革命				
第10回 大戦間期の世界経済				
第11回 世界大恐慌と世界経済				
第12回 ナチスとニューディール(1)				
第13回 ナチスとニューディール(2)				
第14回 第二次世界大戦後の世界経済				
第15回 総まとめ				
テキスト	石坂昭雄・舟山榮一・宮野啓二・諸田實編著『西洋経済史』（有斐閣）			
参考文献	石坂昭雄・壽永欣三郎・山下幸夫・諸田實編著『商業史』（有斐閣）			
単位認定の方法	定期試験の点数と出席率の総合評価（出席3分の2以上の学生のみ評価します）			
内容的に関連する科目	欧米の産業と交易の歴史 I、日本経済の歩み I & II			

科目名	地域の経済政策	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		3	後期	2
担当者名	野口秀行	テーマ	勝ち組みと負け組み地域経済の優勝劣敗	
授業概要 <p>本講義では、なぜ過疎が進むのか？なぜ都市と地方との間に経済格差が生まれるのか？経済のグローバル化がなぜ地域経済を疲弊させているのか？これらの問題を解決していくためには、地域の経済政策は、どうあるべきなのかについて学ぶ。</p>				
授業計画				
第1回 勝ち組みの代表亀山モデル				
第2回 産業構造転換と地域経済（浜松に見る地域の産業政策）				
第3回 地域経済と産業インフラ整備Ⅰ（鉄道・港湾・空港・高速道路）				
第4回 地域経済と産業インフラ整備Ⅱ（高速インターネット・大学）				
第5回 地方自治体の産業政策の放棄				
第6回 産官学連携とインキュベーション				
第7回 マイケル・ポーターの産業クラスター論				
第8回 90年代米国におけるクラスター形成				
第9回 わが国における地域クラスター形成				
第10回 インテリジェントコスモスの挫折と東北の先端産業				
第11回 創造化時代・知識経済への転換(1)				
第12回 創造化時代・知識経済への転換(2)				
第13回 秋田の老舗企業と時代への対応は				
第14回 秋田のオンリーワン企業（世界的な高シェア企業群）				
第15回 創造化時代・知識経済への転換(3)				
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
単位認定の方法	試験の成績ならびに出席状況により総合的に判断			
内容的に関連する科目	地域づくり論			

科目名	経済学の歴史Ⅱ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	History of Economic Thought I	3	後期	2
担当者名	佐藤 努	テーマ	現代とは何か	
授業概要 <p>A. スミスは18世紀のイギリスで、経済過程を市場にゆだねるならば「神の見えざる手」によって調和がもたらされると主張した。このスミスの見解は、21世紀の新自由主義や市場万場主義の根拠の1つとなっている。しかし、スミスの自由主義は、封建的な権力・権威からの個人の自由を主張したのであって、個人と個人が全くの他人同士として「自由」に競争することを主張したのではない。18世紀のスミスの経済学から21世紀の市場万能主義の経済学まで、経済学はどのように展開してきたのかを見ていく。</p>				
授業計画				
第1回	はじめに			
第2回	第1章 経済学と価値論・自然価格論			
第3回	第2章 A. スミス『国富論』「序論および本書の構想」			
第4回	第3章 A. スミスの価値論（その1）			
第5回	第3章 A. スミスの価値論（その2）			
第6回	第4章 K. マルクスの価値論と生産価格論（その1）			
第7回	第4章 K. マルクスの価値論と生産価格論（その2）			
第8回	第5章 限界革命			
第9回	第6章 A. マーシャルとケンブリッジ学派			
第10回	第7章 ケインズの経済学			
第11回	第8章 資本・価値論争			
第12回	第9章 P. スラッファ『商品による商品の生産』			
第13回	第10章 新古典派総合			
第14回	第11章 1970年代以降の諸学派			
第15回	まとめ			
テキスト				
参考文献	随時紹介します。			
単位認定の方法	筆記試験の成績に出席を加味します。			
内容的に関連する科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、資本主義経済のしくみⅠ・Ⅱ、欧米の産業と交易の歴史Ⅰ・Ⅱ			

科目名	地域づくり論	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		2	後期	2
ふりがな 担当者名	の ぐち ひで ぶき 野 口 秀 行	テ ー マ	全国総合開発計画の歴史とその破綻	
授業概要 <p>経済のグローバル化にともない地域経済は極度に疲弊し、次第に再生への反発力を失いつつあると見られる。加えて地方財政は事実上破綻の危機に瀕し、このような状況下で強行された平成の大合併は、その陰で多くのコミュニティを崩壊の瀬戸際に追い込んでいる。そうしたなかで、コミュニティを今一度再興するにはどうすればよいかを、英国や米国などを例に学ぶとともに、今後の地域づくりのあり方について検討を加えて行く。</p>				
授業計画				
第1回 全国総合開発計画の歴史(1)戦後復興				
第2回 全国総合開発計画の歴史(2)均衡ある発展				
第3回 全国総合開発計画の歴史(3)破綻				
第4回 わが国と欧米の地方自治制度（民主主義の成熟度）				
第5回 平成の大合併（市町村合併の愚昧）				
第6回 補完性の原理（EU憲章）				
第7回 英国におけるコミュニティ再生（チャリティ・地域ファンド）				
第8回 米国におけるコミュニティ再生（CRAと金融システム）				
第9回 わが国におけるコミュニティ再生				
第10回 地方制度調査会の提言（近隣自治区・近隣政府）				
第11回 英国のバリッシュ・米国のスペシャル・ディストリクト				
第12回 欧米から我々が学ぶべきこと				
第13回 コミュニティ再生に向けて（PPP）				
第14回 コミュニティ再生に向けて（コミュニティ・ビジネス・NPO）				
第15回 コミュニティ再生に向けて（コミュニティ・ファイナンス）				
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
単位認定の方法	試験の成績ならびに出席状況により総合的に判断			
内容的に関連する科目	地方財政論			

科目名	公務員の数学Ⅱ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Mathematics for Examinations II	2	後期	2
担当者名	佐藤 努	テーマ	基礎を身につけよう	
授業概要 公務員試験のなかでも国家Ⅲ級・地方初級レベルの数的推理の問題が解けるようになることを目指す。図形の問題に中心的に取り組み、基礎の反復練習に重点をおく。関連する他の科目・講座等と合わせて履修することが望ましい。				
授業計画 第1回 角度の問題(1) 第2回 角度の問題(2) 第3回 相似(1) 第4回 相似(2) 第5回 相似(3) 第6回 図形の計量(1) 第7回 図形の計量(2) 第8回 図形の計量(3) 第9回 三平方の定理(1) 第10回 三平方の定理(2) 第11回 三平方の定理(3) 第12回 円と扇形(1) 第13回 円と扇形(2) 第14回 総合問題(1) 第15回 総合問題(2)				
テキスト	プリントを配布します。			
参考文献				
単位認定の方法	小テスト、期末試験の成績に出席を加味する。			
内容的に関連する科目	数学のはなしⅠ・Ⅱ			

科目名	年金・保険を考える	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Social Security	3	後期	2
担当者名	藤本 剛	テーマ	健やかで豊かな暮らしのために	
授業概要 <p>20歳になると学生であっても、国民年金の保険料を納める義務が生じます。特例制度の適用申請を行って、とりあえずは納付を先延ばしした人もいられるでしょう。老後や障害に備えた保障の準備は基本的に全国民に求められています。病気やケガに対する備えも同様です。社会保険のシステムを用いた社会保障制度は国民の健やかで豊かな生活の実現を目指しています。制度はかなり複雑で、時代に応じて変化も大きいですが、現状はどうか。将来はどうか。国民の年金不信や医療費の負担増など、様々な課題があるなかで、私たちの将来の方向を共に考えていく科目です。</p>				
授業計画				
第1回 社会保障とは何か・その歴史と背景				
第2回 社会保障の体系・社会保険について				
第3回 公的年金制度①（制度と内容1）				
第4回 公的年金制度②（制度と内容2・背景）				
第5回 公的年金制度③（現状と課題）				
第6回 企業年金①（制度と内容）				
第7回 企業年金②（現状と課題）				
第8回 公的扶助①（意義・原理・原則）				
第9回 公的扶助②（現状と課題）				
第10回 公的医療保険①（制度の概要）				
第11回 公的医療保険②（健康保険）				
第12回 公的医療保険③（国民健康保険・老人保健）				
第13回 公的医療保険④（養老）				
第14回 公的介護保険（制度の概要、現状と課題）				
第15回 まとめとテスト				
テキスト	『公務員Vテキストシリーズ 社会政策』TAC出版			
参考文献	『厚生労働白書』各年版			
単位認定の方法	出席率、試験、レポート、メッセージカードの総合評価			
内容的に関連する科目	生活と社会福祉、労働について考える			

科目名	東アジア経済の話	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Asian Economy	3	後期	2
担当者名	にし お けいいちろう 西 尾 圭一郎	テーマ	東アジアの経済のおはなし	
授業概要 <p>東アジアという地域に関する概念は、研究者によって異なる。中国、日本、南北朝鮮のみをさして東アジアという場合もあれば、ASEAN 地域なども含む広義の東アジアを対照とする場合もある。このように一言で東アジアと言っても様々な捉え方があるように、アジアをめぐる研究は非常に様々な捉え方が出来る。本講義では幅広い概念に対応すべく、広い意味での東アジア経済を対象に学習する。</p>				
授業計画 第1回 インTRODクショ _ン 第2回 東アジア経済の現状 第3回 東アジア経済を学ぶ際のフレームワーク 第4回 開発経済学における東アジア経済の位置づけ 第5回 開発経済学の基礎① 第6回 開発経済学の基礎② 第7回 地域研究：NIES① 第8回 地域研究：NIES② 第9回 地域研究：NIES③ 第10回 地域研究：NIES④ 第11回 地域研究：ASEAN① 第12回 地域研究：ASEAN② 第13回 地域研究：ASEAN③ 第14回 地域研究：ASEAN④ 第15回 まとめ				
テキスト	長谷川啓之編著『グローバル化時代のアジア経済』創土社			
参考文献	講義中に適宜とりあげます			
単位認定の方法	出席、試験、および平常点			
内容的に関連する科目				

科目名	公務員のミクロ経済学	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Microeconomics	3	後期	2
担当 ^{ふりがな} 者名	金子 ^{かねこ} 光 ^{みつ}	テーマ	ミクロ経済学	
授業概要 <p>「ミクロ経済学」は「経済学的思考」の理解にとり大変重要な学問である。</p> <p>この講義では、①「ミクロ経済学」の「理論」を学んだ上で、②「マクロ経済学」・「財政学」・「公共経済学」など関連する学問分野の内容をも考慮に入れ、「ミクロ経済学」の様々な「理論」を用いて現実の公共部門の「政策分析」・「制度分析」を試みる。</p> <p>講義内容は、公務員試験対策としてはもとより民間就職試験対策としても生かせるものとなっている。</p>				
授業計画				
第1回	消費者理論：効用、無差別曲線、限界代替率			
第2回	効用最大化：予算制約線、最適消費決定			
第3回	生産者理論：生産関数、総費用曲線と利潤最大化条件			
第4回	余剰分析：消費者余剰・生産者余剰・死荷重・総余剰			
第5回	課税の影響：従量税・従価税			
第6回	一般均衡分析：パレート最適条件、エッジワースのボックス・ダイアグラム、厚生経済学の基本定理			
第7回	不完全競争市場：独占・複占・寡占			
第8回	独占：独占企業の利潤最大化			
第9回	複占：クールノー均衡、ベルトラン均衡、シュタッケルベルク均衡			
第10回	市場の失敗			
第11回	外部性：ピグー的政策、コースの定理			
第12回	費用逓減産業（自然独占）：平均費用価格形成原理、限界費用価格形成原理			
第13回	公共財：公共財供給のパレート最適条件（サムエルソンの公式）、フリー・ライダー問題、リンダール均衡			
第14回	情報の非対称性：道徳的危険（モラル・ハザード）、逆選択（アドバース・セレクション）			
第15回	ゲーム理論：囚人のジレンマ、ナッシュ均衡、混合戦略、ミニマックス原理			
テキスト	特定の教科書は用いない。必要に応じてレジュメ等を配布する。			
参考文献	講義の際、適宜紹介する。			
単位認定の方法	出席状況と定期試験の結果を基に総合的に評価する。			
内容的に関連する科目	経済学部：「公務員のマクロ経済学」（前期）			

科目名	入門ロジスティックス	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Introduction to Production Management II	3	後期	2
担当者名	阿部 時 男	テーマ	最先端の生産管理技法について	
授業概要 <p>生産管理を広義に定義するならば、“財貨の生産に関与する諸種の生産力の総合的調整によって企業全体としての生産力を最高度に発揮せしめる”（生産管理便覧、丸善）である。すなわち、物的ならびに人的生産力を合理的に組み合わせることによって経営目的達成のために諸活動を組織的・科学的に機能させ、高い生産能率をあげることである。そのためには、まず、設備・工具・動力の機械化そして管理面の情報化と人間工学的な合理化を図り、また、一方で労働力の能率的利用のための技能の養成と能力の開発を促進することである。</p> <p>現代の生産管理は、部材の調達から、生産、そして、流通・消費にいたる一連の流れ（ロジスティックス）の中で機能することが求められている。すなわち、生産現場の管理から、広くもの作りを流通の中の製造部門の観点（SCM）で見つめて行かなければならない。この科目で取り扱う内容は、前期のビデオ教材学習を踏まえて、現代企業（製造業の管理を中心に）を理解する上で欠かすことの出来ないジャスト・イン・タイム生産方式、SCM、そして、VMIなどについて学習する。</p>				
授業計画				
第1回 生産管理の仕組み				
第2回 在庫管理1（基礎理論）				
第3回 在庫管理2（システム化）				
第4回 在庫管理3（安全在庫、トータル在庫）				
第5回 トヨタ方式1（かんばん、自動化、段取り替えなど）				
第6回 トヨタ方式2（かんばん、自動化、段取り替えなど）				
第7回 トヨタ方式3（かんばん、自動化、段取り替えなど）				
第8回 MRPとトヨタ方式				
第9回 SCM入門1				
第10回 SCM入門2				
第11回 SCM入門3				
第12回 ERPと生産管理				
第13回 TQCからTQM				
第14回 ECR・QRと生産システム				
第15回 VMIと生産管理				
テキスト	田中一成著 「図解生産管理 基本の基本からSCM、ERPまで」日本実業出版社、プリント教材			
参考文献	『生産管理の基礎テキスト』、日本能率協会マネジメントセンター、『新IE入門シリーズ』、第1巻～11巻 平野裕之著 日刊工業新聞社			
単位認定の方法	出席、中間・期末試験、宿題、各25%、出席率66%以下は認定対象外			
内容的に関連する科目	経営管理、経営学、もの作りの管理、流通システム			

科目名	会 計 学	分 類	マネジメント学科必修	
		開講年次	開講期間	単 位 数
英文表記	Accounting	2	後期	2
担当者名	木 村 了	テ ー マ	財務会計の基礎と展開	
授業概要 <p>本講は、前期で学んだ企業会計原則（一般原則）の理解の上に、さらに理解を深めるために、財務会計の理論と財務諸表の作成を中心に進めていく。財務会計は企業の経済活動を会計固有のシステムによって、写像し、それを会計情報として開示することにより、投資者をはじめとする外部利害関係者の持分の擁護と合理的意思決定を可能にすることを目的としている。</p>				
授業計画				
第1回 債権・有価証券				
第2回 棚卸資産				
第3回 有形・無形固定資産				
第4回 固定資産の減損会計				
第5回 繰延資産				
第6回 引当金・退職給付会計				
第7回 純資産				
第8回 株主資本変動計算書				
第9回 損益計算書				
第10回 収益の認識と測定				
第11回 費用の認識と測定				
第12回 連結財務諸表(1) 基礎				
第13回 (2) 連結 P/L, B/S				
第14回 会計をめぐる国際的動向				
第15回 後期試験				
テキスト	『財務会計の基本を学ぶ』（同文館）			
参考文献	木村了『制度簿記論』（白桃書房）、飯野利夫『財務会計論』（同文館）、武田隆二『最新財務諸表論』（中央経済社）、『会計法規集』（中央経済社）			
単位認定の方法	出席、授業中に行う小テスト、期末試験の成績などを総合的に勘案し評価する。			
内容的に関連する科目	マネジメント学科の学生で税理士等の資格取得を目指す者は必ず受講して下さい。			

科目名	経営学Ⅱ	分類	必修(マネジメント学科)・選択(経済学科)	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	BUSINESS ADMINISTRATION II	1	後期	2
担当者名	あともへ まなぶ 跡部 学	テーマ	マネジメント論	
授業概要 経営学Ⅱでは経営学Ⅰの理解を前提にして経営学に関してやや専門性を高めた講義をしたいと思ひます。「マネジメント・セオリー・ジャングル」とする言われる経営学の、特に管理的側面に焦点を当てて、管理・組織・人事についての主要な議論の理解を図りたいと思ひています。理論は当然ですが基礎的な用語の説明などを含めて、体系的に可能な限り整理して講義を行います。2年次以降の専門科目への準備としても重要ですのでしっかりと受講してください。講義では全15回を初學者の皆さんに可能な限り理解しやすい内容で進めていきます。また皆さんの興味や関心をより強く持ていただくために各講義では身近な企業と経営に関するニュースを新聞・ビデオ等から適宜取り上げ、各講義の導入部分を利用しながら一緒に考えていきたいと思ひています(受講者の理解の度合いや希望によってはシラバスの変更も考えられますのでこの点予めご理解下さい)。				
授業計画				
第1回 アメリカ経営学の発展(テイラーの科学的管理Ⅰ)				
第2回 アメリカ経営学の発展(テイラーの科学的管理Ⅱ)				
第3回 アメリカ経営学の発展(テイラーの科学的管理Ⅲ)				
第4回 アメリカ経営学の発展(人間関係論Ⅰ)				
第5回 アメリカ経営学の展開(人間関係論Ⅱ)				
第6回 アメリカ経営学の展開(人間関係論Ⅲ)				
第7回 フォーディズムの成立(狭義のフォーディズムⅠ)				
第8回 フォーディズムの成立(狭義のフォーディズムⅡ)				
第9回 フォーディズムの成立(フォード生産システムⅠ)				
第10回 フォーディズムの成立(フォード生産システムⅡ)				
第11回 近代組織論の成立				
第12回 組織構造と権限(トップマネジメントの組織と機能)				
第13回 組織構造と権限(ライン組織・ライン&スタッフ組織ほか)				
第14回 組織構造と権限(ファンクショナル組織・事業部制組織ほか)				
第15回 経営学の再考				
テキスト	適宜、指示あるいは配布します。			
参考文献	鶴田満彦編著『現代経済システム論』日本評論社、2005年。企業研究所編『コーポレート・ガバナンスと企業価値』中央大学出版部、2007年。			
単位認定の方法	出席・レポート・試験等、総合的に判断します。			
内容的に関連する科目	経営管理論等、経営学関連科目			

科目名	MIS 論Ⅱ (経営の情報Ⅱ)	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Management Information System Ⅱ	2	後期	2
担当者名	阿部 時 男	テーマ	経営情報システムと販売管理	
授業概要 <p>経営活動におけるコンピュータ・データベースシステムの活用とその重要性をMISⅠ (経営の情報Ⅰ) で学んだ。そこで学んだ生きた知識をもとにMISⅡ (経営の情報Ⅱ) では、販売業務をたたき台として経営情報システムにまつわる最新の話題 (ビデオ教材を取り入れ) について事例を取り入れ解り易く解説する。特に、データ通信 (インターネット) の高度化と普及は、様々な経営活動に大きな変革をもたらし、また、今後もその変革の勢いは止まることのない。未来に活躍する諸君に取って、最新のIT技術とデータベースを応用した経営情報システム (POS、CRM、SCM、ECR、VMIなど) を知ることは不可欠と言って良い。</p> <p>この科目は、コンピュータに関する技能と知識が必須となっている今日の情報社会において諸君の血となり肉となるものと確信している。</p>				
授業計画				
第1回 販売の諸活動				
第2回 販売の諸活動 (イントラネット)				
第3回 販売の諸活動 (POS)				
第4回 販売の諸活動 (POS)				
第5回 販売の諸活動 (CRM)				
第6回 販売の諸活動 (SCM)				
第7回 販売活動と情報システム (SCM)				
第8回 販売活動と情報システム (VMI)				
第9回 販売活動とデータベースマーケティング				
第10回 販売活動の諸活動 (ECR・QR)				
第11回 販売・流通システム				
第12回 販売・物流システム (在庫管理システム)				
第13回 販売・物流システム (輸送管理システム)				
第14回 生産・物流システム (ロジスティック)				
第15回 生産・物流システム (在庫管理システム)				
テキスト	『販売情報システム』石渡徳彌 日科技連、「パワーポイント教材」、プリント教材			
参考文献	『情報システムの分析・設計』国友義久 日科技連			
単位認定の方法	出席、中間・期末試験、宿題 各25%。			
内容的に関連する科目	経営管理、経営の情報Ⅰ、マーケティングⅠ・Ⅱ、流通システムⅠ・Ⅱ			

科目名	流通システムⅡ	分類	選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Distribution System Ⅱ	2	後期	2
担当者名	中村和彦	テーマ	流通に関する基礎理解	
授業概要 <p>流通は生産者と消費者を結びつなく重要な役割と機能を持ち、我々の生活と深く関わっている。流通には商取引流通と物的流通の二大機能があり、流通活動に携わる製造業、卸売業、小売業、運輸業などが互いにつながりをもって流通経路を構築している。本講義では、流通の役割や仕組み、流通業の基礎知識から、業界史、流通企業の現状や課題など、流通システムだけをクローズアップするのではなく、事例を取り入れながら、幅広く流通全般をわかりやすく学習していく（流通システム論ⅠとⅡを続けて履修するのが望ましい）。</p>				
授業計画				
第1回 ガイダンス 前期の復習				
第2回 情報化と流通、流通の社会的重要性、消費価値観				
第3回 卸売業、チェーン・オペレーション				
第4回 フランチャイズ、コンビニエンス・ストア				
第5回 プライベート・ブランド				
第6回 ナショナル・ブランド				
第7回 チャンネル・パワー論				
第8回 医薬品、化粧品流通システム				
第9回 業態別流通システム ディスカウント・ストア				
第10回 業態別流通システム 食品スーパー				
第11回 業態別流通システム アウトレット				
第12回 業態別流通システム 通販、専門店など				
第13回 流通業界の環境武装				
第14回 これからの流通マーケティング				
第15回 期末試験				
テキスト	講義毎にレジメ・資料を配布し、それをもとに講義を進める			
参考文献	コトラー&アームストロング『マーケティング原理』ダイヤモンド社			
単位認定の方法	平常点と期末試験の総合評価			
内容的に関連する科目	マーケティング・マネジメント、販売士講座、マーケティングなど			

科 目 名	リーダーシップ論	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Theory of Leadership	2	後期	2
(ふりがな) 氏 名	いとうごろう 伊藤 護 朗	テ ー マ	組織における人間関係を考える	
授業概要				
<p>リーダーシップとは、変革を成し遂げる力量を指す。近年リーダーシップの重要性が高まっている背景の一つに、ビジネスの世界で競争と変化が激しさを増していることがあげられる。同じことを繰り返したり、あるいはそれを少しばかり改善したくらいでは、もはや成功を手にするにはできない。</p> <p>本講では、「リーダーシップの科学」や「人心掌握のベース作り」などを取り上げ、変革を余儀なくされている新しい環境を生き抜く方法を模索する。</p>				
授業計画		後 期		
		第1回 リーダーシップとは		
		第2回 リーダーシップの科学(1)―「PM理論」「P機能」「M機能」などについて		
		第3回 リーダーシップの科学(2)―「因子分析」「配慮」「体制づくり」などについて		
		第4回 組織集団の状況とリーダーシップ		
		第5回 動機付け理論（欲求の喚起）		
		第6回 リーダーになるための条件		
		第7回 人間関係管理論(1)―「人間（じんかん）距離」を中心に		
		第8回 人間関係管理論(2)―「青い鳥症候群」「燃えつき症候群」など		
		第9回 人間関係管理論(3)―信頼関係を中心に		
		第10回 職場におけるリーダーシップ		
		第11回 人心掌握のベース作り		
		第12回 説得力を高めるには―「ハロー（後光）効果」など		
		第13回 説得者の魅力効用―「理念と方針」「人脈」「振る舞い」など		
		第14回 説得効果を高める手順―「ロールプレイング」など		
		第15回 テスト		
テ キ ス ト	開講時に指示する。			
参 考 文 献	ジョン・P・コッター著、黒田由貴子訳「リーダーシップ論」（ダイヤモンド社）			
単位認定の方法	出席状況・テスト			
内容的に関連する科目	「社会活動」「心理学」			

科 目 名	生活と物権	科目分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Life and Property	2	後期が2クラス 通年が1クラス	4
(ふりがな) 氏 名	とよ だ まさ あき 豊 田 正 明	テ ー マ	身近な権利としての物権	
授業概要				
<p>本講義は、講義形式で行われるのを基本とします。講義では、物権・担保物権について基本的な理解を深め、問題となっているところにも触れることにより、理解を深めることを目的とします。なお、夜間、土曜日に配当されている科目については、履修者があまり多くないことが予想されるため、より質問が多くなるかと思えます。</p>				
授業計画 前期				
第1回 ガイダンス		第16回	用益物権総論	
第2回 物権の意義、性質、客体		第17回	地上権、地役権	
第3回 物権法定主義、物権の種類および分類、法源		第18回	永小作権、入会権	
第4回 物権行為		第19回	担保物権総論	
第5回 物権変動、意思主義、形式主義		第20回	留置権、先取特権	
第6回 対抗要件、二重譲渡		第21回	質権	
第7回 背信的悪意者		第22回	抵当権の意義、性質	
第8回 登記に関する諸問題		第23回	抵当権の効力	
第9回 中間省略登記		第24回	抵当権を巡る諸問題	
第10回 動産の物権変動と対抗要件		第25回	抵当権の処分	
第11回 即時取得		第26回	法定地上権	
第12回 占有権		第27回	特殊抵当	
第13回 所有権		第28回	非典型担保総論	
第14回 区分所有権		第29回	譲渡担保、所有権留保	
第15回 共有、合有、総有		第30回	復習	
テ キ ス ト	小泉健『物権法概説』（酒井書店）			
参 考 文 献	講義のはじめに指示。			
単位認定の方法	出席および定期試験による。2／3以上の出席は必須。			
内容的に関連する科目	民法の入門、請求権の性質、債権各論、親族相続法			

科 目 名	刑 法 の 基 礎	科目分類		
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Criminal Law (general parts)			4
(ふりがな) 氏 名	さえ ぐさ 三 枝 たもつ 有	テ ー マ	刑法総論の機能と理論	
授業概要				
<p>刑法総論における重要論点を取り上げ、刑法総論に関する論理的思考力の修得を図ることを目的とする。特に、具体的刑事事件につき判例と学説との理論構成の相違点を明確にすることで、刑法における総論的思考のあるべき姿を探求する。講義ではあるが、極力双方向的に講義運営することで、論理的思考を引き出せるように配慮する。</p>				
授業計画				
第1回	履修上の諸注意。刑法の考え方（構成要件＋違法性＋責任＝犯罪）。罪刑法定主義、不作為犯とは？不真正不作為犯の成立要件、作為義務における問題点とは？			
第2回	間接正犯とは？何が間接？道具理論と行為支配説（理論の在り方）を考える。間接正犯の成立範囲は？			
第3回	原因と結果の関係？・・・因果関係論。条件関係における問題点（仮定的因果関係、択一的競合など）を考える！相当因果関係とは？行為後の特殊事情の介在の課題・・・狭義の相当性の問題。			
第4回	実行行為における問題点を考える！実行行為とは？結果がないのが未遂犯？結果がでないのが不能犯？結果を止めたのが中止犯？について具体的事例を検討する。			
第5回	違法性の本質とは？悪い行為も悪くなくなる一般的正当行為とは？・・・被害者の承諾、安楽死・尊厳死など。			
第6回	正義が勝つ？・・・正当防衛が成立する場合：正当化の根拠、急迫性の問題点、防衛行為の問題点、防衛の意思。過剰防衛、誤想防衛とは？			
第7回	緊急避難とはなんだろう？・・・法的性質、成立要件における問題点。緊急避難の諸問題（自招危険、強要による緊急避難、過剰避難、誤想避難）を考える。			
第8回	責任の概念とは？責任能力について。「原因において自由な行為」とは？その問題点。			
第9回	故意の意義とは？事実の錯誤とは？・・・具体的事実の錯誤、抽象的事実の錯誤の問題点を考える。ウェーバーの概括的故意と早すぎた構成要件の実現を比較的に考える。			
第10回	過失論とは？過失の諸問題（信頼の原則、過失の競合、監督過失など）を考える。期待可能性の理論とは？			
第11回	共犯総論・・・みんなで犯罪＝共犯の意義。共犯概念について（共犯の本質とは？）。実行従属性、要素従属性とは？			
第12回	共同正犯とは？正犯としての根拠とは？さまざまな共犯形態：過失の共同正犯、承継的共同正犯、共謀共同正犯、予備罪の共同正犯などを考える。			
第13回	教唆犯・幫助犯とは？教唆の諸問題・・・幫助の因果関性、従犯と共同正犯との区別、従犯の諸問題などを考える。			
第14回	共犯論の諸問題を考える・・・共犯と身分とは？共犯と不作為とは？共犯と錯誤とは？共犯関係からの離脱できる？共犯と違法性阻却事由。			
第15回	刑法総論の総まとめ。事例問題検討。			
テ キ ス ト				
参 考 文 献	前田雅英「刑法総論講義（第4版）」、裁判所職員総合研修所監修「刑法総論講義案（三訂版）」司法協会			
単 位 認 定 の 方 法	期末試験60%、課題20%、授業態度（質疑応答、出席状況等）20%。			
内 容 的 に 関 連 する 科 目	いろいろな犯罪、刑事訴訟法			